

慶応二年八月三日より慶応二年八月六日まで

P8310613 right

□遣し□の積り也、大塚未亡人來り過日の謝返し旨也

三日 丑 陰漸に晴

周防守殿御宅に第十時白義耳使節御□逢有之出雲守殿御列席、右へ出る午時過歸宅

長蔵來る、刀ぬり替え柄色直し其外修復でき持參直ぐに代料渡し遣す、寺山小君小品

持參急の京地引移りの沙汰有之、佐七転役願いの義縷々申聞る

江連(加より)懇請に□せ

本日 権四郎を護り遣す、

四日 寅 晴雲

河内守殿より横濱舶來小銃買入れ方て手続周旋の義御頼越れり、西村(鉄)此の榮転せし吹

聴傍來り面し縷々の話あり、出 殿退出より礫門へ廻る、酒肴を享せらる、鍬兎も

P8310613 left

同所へ來り訪(おとな)ひ洋酒

來り訪ひ洋酒二壺蒸菓子など持參す、広沢(悦)來りし旨、

五日 卯 陰午下微雨

深津(弥)來り面す、番町隠居來り裁園の薑(生姜)と蒸菓子一折贈らる、伊藤(幸)へ洋酒一瓶

を遣す、出 殿、上坂御用御長持□油□ん絵符などを納む(御細工所方藤本新吉引合)礫姑來り菓子、

等贈らせし旨、保三來る、松盛齋訪病として洋酒一瓶を遣す

六日 辰 暴雨

正革(覺)來る御先手頭御停廢に付、組与力同心の義聞合有之、須崎(常)來る、此日京地詰の□

長州人一件御□衣吹聴申聞る、右賀赤飯二重贈り來る墨陀園より野菜物少許届く

右賀として紙代り兼霜糖一大管を遣し快翁方へ少許遣せし旨、出 殿、松盛斎稽古に

（内は細字双行）一行に小さい文字で二行書きなどの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。